

平成18年度 クラミジア抗体検査のまとめ

近年、特に若年者の中でクラミジアなどの性感染症が流行しており、その予防啓発の一環として平成13年度よりHIV検査と合わせてクラミジア・トラコマチス抗体についても無料匿名検査を実施しています。18年度は7か所(青葉、緑、保土ヶ谷、鶴見、南、中、西)の福祉保健センターとAIDS市民活動センターで週1回行っている夜間健診、結核予防会で行っている土曜健診の計9か所で採取された血清を試料とし、「ペプチドクラミジアIgA及びIgG」を用いて検査を実施しました。

クラミジア抗体検査は感染している可能性について調べるスクリーニング検査です。IgAもしくはIgGが陽性の場合、医療機関を受診することを促しています。受診者に結果を返却する際には以下の内容をお知らせしています。

クラミジア検査について

この検査は、感染している可能性があるかどうかを調べる1次検査です。

1次検査では、感染していなくても何人かの方は感染の疑いが出ることがあります。病気がどうか診断するには医療機関で確認検査を受診することを勧めています。

今回の検査結果は、採血日より3週間ほど前の状態を表しています。

感染後、血液中のクラミジア抗体が増加して、検査で判定可能になるまでに約3週間かかります。

検査はIgAとIgG、2種類の抗体を測定し、感染している可能性を判定しています。

<判定>

IgA (-)	IgG (-)	クラミジアの感染は心配ありません。 ただし、何かしら症状がある場合は医療機関を受診してください。	
IgA (+)	IgG (+)	クラミジアに最近、感染した可能性があります。	医療機関での確認検査をお勧めします。
IgA (-)	IgG (+)	感染初期の可能性もあるし、以前に病気にかかったことを表しているのかもしれない。 クラミジアに感染した場合、治療後も長期間、IgGは陽性(+)となります。	
IgA (+)	IgG (-)	感染のごく初期の可能性が考えられます。	

平成14年度から18年度までのクラミジア抗体検査受診者数と陽性者数、陽性率を表1に示しました。17年度は土曜健診でのHIV即日検査の導入により受診者が減少しましたが、18年度は16年度と同程度の受診者が得られました。

表1 14～18年度の受診者数と陽性者数と陽性率

	受診者数(人)	陽性者数(人)*	陽性率(%)
14年度	1,767	517	29.3
15年度	1,957	561	28.7
16年度	2,140	595	27.8
17年度	1,689	501	29.7
18年度	2,117	717	33.9
合計	9,670	2,888	29.9

* IgA、IgGいずれかが(±)以上のものを陽性とした

18年度の男女別受診者数、陽性者数と陽性率を示しました(表2)。前年度同様、受診者数は男性が女性の約2倍と多く、陽性率は女性の方が高い結果でした。

表2 18年度 男女別受診者数、陽性者数と陽性率

	受診者数(人)	陽性者数(人)	陽性率(%)
男性	1,392	408	29.3
女性	725	309	42.6
合計	2,117	717	33.9

18年度の年代別受診者数と陽性者数及び陽性率について図に示しました。20歳代、30歳代の受診者が多かったですが、陽性率は年齢が上がるにつれて上がる傾向が得られました。

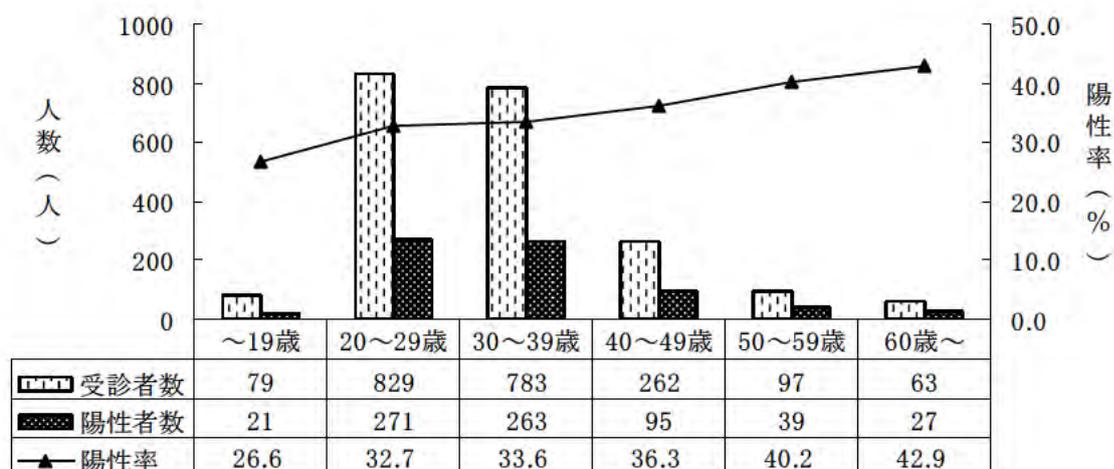


図 18年度 年代別 受診者数と陽性者数、陽性率

【 細菌担当 】